



四季報

平成26年
12月1日発行
第2号

みんなラボ・広報編集室 TEL : 029-879-7351 FAX : 029-879-7352 つくば市吾妻3-14-17 細田ビル2階

「みんなラボのこれから&夢」について

原田先生に平成二十六年九月三十日にインタビューしました

◎第2回総会で「みんなラボのこれまで・これから」と題して原田先生よりお話があり、その後、会員の皆さんからも沢山の要望が出ていました。そうした要望を踏まえて「みんなラボのこれから…」をどのような方向にもっていくのかお聞きします。

④まず、みんなラボ運営の中で、会員の皆様と共有したい「悩み」には、3点あります。
①会員の増加を目指しています。

現在二百名強ですが、もっとたくさんの方にご参加いただけるとよいな、と考えています。お友達のご紹介や、各所のご案内など、会員の皆様にはご協力をよろしくお願いします。

②コミュニティ活動する場所が狭いことが悩みです。みんなラボのオフィスは、ちょっと狭いのです。会員のみなさまに「いつでもふらっと立ち寄っていただける」場所にしていきたいのですが、「あんまりたくさんの方が一度にいらつしゃると、逆に迷惑だし」とも考えてしまつて、「いつでも遊びにいらしてください！」という声も少しだけ小さめになっています。もっと広い、オープンな場所があるといいなあ、と思つています。

(編集委員の声)お天気が良ければ屋外でも出来るかも。つくばは公園が多いので有効活用をしてみたいか？

③他の組織(地方自治体を含む)や団体との連携を図っていききたいです。

つくば市や県南地区で同じように活動をされているいろいろな団体や組織のみなさんと連

携がとれるといいな、と思つています。それぞれの地域で活動してらつしゃる「ふれあいサロン」や「シルバークラブ」などをご紹介いただきたく、また、どんなふうな連携を取るのがよいか、ご意見を聞かせていただけると嬉しいですよ。

◎従来から行つていて、みんなラボカフェやイベントについては、いかがでしょうか？みんなラボカフェでの「業務支援」をーというお話がありました。どのよう「業務」の支援を考えているのですか。

①みんなラボカフェでお願いしたい業務支援は、次の3点です。
②みんなラボカフェの当日の運営


受付をしてくださる方、会場案内・会場設営をしてくださる方など、「その日、ちょっと早目に来て」手を貸してくださいと、大変助かります。

③みんなラボカフェなどの広報や成果報告
会員の皆様にとつて興味のある話題にしていくこと、また、定期的に・計画的に開催していくためにも、企画を中心になって立てていただけると嬉しいですよ。

◎これからのみんなラボで新しくやってみたいことは何でしょうか。
①一つ、できるといいなあ、面白そうだなあ、と思つているのは、たとえば「使いやすさの新聞づくり」です。モノに関するテーマで、会員のみなさんの「目に留まった」ニュースをもちよつ

て、壁新聞や回し読み新聞などを切り貼りしながら、新聞を作るサークル活動のようなものですね。これは、社会に次々に現われるさまざまな「モノ」に興味を持っていたら、批判的に見る考え方を会員の皆さんと共有していきたいと思つているためです。こうした活動の場が、学生や研究員たちに「初めて聞いたモノのことを気軽にいろいろ聞ける場になる」といいなと思つますし、うまくいけば、「みんなラボでは、こんなニュースに興味を持ち、気にしますよ」ということを広く広報できるような仕組みができるといいなと思つますが、いかがでしょうか？もう一つは、「みんなラボの会員さんから、こんなことができるといいな、してみたいな」という希望や意見をいただけて、会員さん中心にそういうイベントが実施できるといいな、ということですよ。例えば、「バス遠足に〇〇に行つてそこで、使いやすさを考える会をやってみよう！」という提案はないでしょうか？「健康カフェのようなものを企画して、体組成計や血圧や健康に関する測定する会をしてみる(あるいはお出かけする)」のもよいかもかもしれません。そんなご意見を「いつでも聞ける」ような仕組みができるといいですね。原田先生のお話は、次から次へとアイデアがポンポン出てきて、話についていくのが大変でした。そして、先生の「みんなラボ」な夢」は、大きく「みんなラボ」を全国に作るのだそうです。全国のみんラボが、ネットワークでつながつて、日本全体の「モノづくりにコミュニティを支援していけるといいですね！」とお話を結んでいただきました。(今井・佐々木)

原田悦子
筑波大学
人間系心理学域教授
専門分野：認知心理学



研究
テーマ
使いやすい筑波大学附属病院



白川洋子さん
筑波大学附属病院
副院長・看護部長

— みんなラボ研究員チーム成果発表に対する白川副院長の講評 —

前号で報告した、筑波大学病院研究発表の際に、病院側を代表して白川さんから貴重な講評をいただきました。この講評は私たちが訴えようとしている事、また病院側が利用者の方々にはわかってほしいと思っっていることの要点が浮き彫りになっています。そこで白川さんの講評内容を要約してお伝えしたいと思います。

立場が違うと見方が違う

病院側の立場として*ユーザーの方に分かってほしい事とか、今の事情はこうなんですよという事とか、知ってほしい事もあります。発表を伺って、立場が違うとこんなに病院というものの見方が違うんだなということを経験側の人間として思いました。病院というものの仕組みとか大学病院というものが分かっていただくのはこんなに難しいことなのかな

と思いましたが。しかし、病院というものが解ること、病気が解るといいうことがユーザーさんにとっては必要なことだと思います。

大学病院というものの仕組みや病気の事が解るといいうことがユーザーの方にとって必要

そういう教育が日本ではとても少ない、小学生の時から病院の仕組みや病気の事とかを教育をする事が必要だと思います。病院も機能分化が進んでいます。たとえば大学病院(800床規模)と通常の300床位の病院とどこが違うのかこのあたりのことも知っておいていただきたいのです。

筑波大学病院は受入れ許容範囲を超えた状態

なぜこんなに患者さんが多いのでしょうか。病院の規模から見ると、外来の患者さんは1600人位がちょうどいいという意見がありますが、今はどうしても2000人を超えてしまっています。しかも、通常のクリニックでも大丈夫な患者さんも押し寄せてきます。地域連携がなかなか進まない。地域の病院に安心して受診出来ない、なにかそういう事情があるのかもかもしれません。

病院の活用の仕方一つで患者さんも医者も皆が幸せになる

私達も、病院のユーザーの方たちもどの病院をどのように活用すれば皆が幸せになれるかを、立場を越えてお互いに気持ちを一つにして話し合う必要があると思います。

お互い集まり、一つになって話し合う必要がある

まだ病院は環境も整わない、*5Sもほとんど進んでいない。また患者さんたちには筑波大病院に集中されないので、それぞれ自分に合った病院を探してほしい。それを探せるような広報活動、情報の発信をこれからしていかなくてはなりません。庶民的で開かれている大学病院と専門的な治療をする病院、この二つの枠をどこでどういう風に折り合いをつけられるのかというところがこの筑波大学病院の課題ではないかと思えます。

このような研究会を継続していければいいと思う

またユーザーさん側とお互いが理解しあっているように私たちもしたいと思います。このような研究会を継続していければいいのかなと思います。

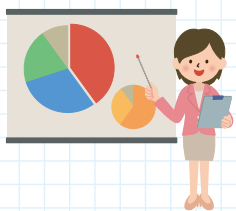
(根岸・八文字)

*ここでいうユーザーとは“病院を利用する人”という意。患者も含め、薬局の人、研究者、連携医院、一般訪問者等。
*5Sとは整理、整頓、清掃、清潔、躰の五つの語句の総称です。各語句のイニシャルをとってこう呼びます。

認知科学会大会にて病院プロジェクトの成果発表を行いました

本年九月二十日(土)に、名古屋大学で行われた、第三十一回認知科学会大会に於いて、みんなラボ研究員チームによる、「筑波大学附属病院の使いやすさを考える」プロジェクトの研究成果について、ポスター発表をしました。(病院プロジェクトにつきましては、是非、みんなラボ四季報創刊号をご覧ください！)

一時間の発表時間でしたが、いろいろな方々に、みんなラボ研究員チームの調査研究に興味を持って頂きました。発表に併せて、みんなラボ四季報創刊号を配布したところ、皆さんは興味津々で読んでいらつしやいました。これからのみんなラボ研究員プロジェクトの成果につきましてもどんどん外へ発信して、みんなラボの認知度を高めていきたいと思っております。(守下)



土曜会議レポート

●土曜会議とは？

本年四月より、毎週土曜日にみんなラボ会員と学生、時にはメーカーの方も集まり「モノの使いやすさについて」話し合い、情報交換をする土曜会議を行っています。何回かの会議を通して、活動に結び付いた二つのテーマについて経過をお知らせいたします。

●運動と健康を考える

―体を動かす運動ゲームの ―使いやすさ向上活動―

工学部の学生が開発している運動ゲームを毎回持参して、みんなラボ会員の皆様に使ってもらい、感想をもらったうえで次の会までに修正するという活動を行いました。

最初はただ味気ない運動ゲームでしたが、①運動を一緒に行うインストラクター（ふなっしーや福山雅治など）が選べるようになり、②準備体操を兼ねた簡単なゲーム（ダルマ運びゲーム）が付き、③操作を行うコントローラの形も変わりました。これらはすべて、みんなラボ会員の皆様のアドバイスを参考にして追加した機能です

完成したゲームは十月一日から三日に開かれた国際福祉機器展（東京ビッグサイト）にて展示を行いました。

●食を考える

―みんなラボレシピ集作成活動―

キューピーの三尋木さんとともに、みんなにとって使いやすく、読んでいて楽しい手づくりレシピ集を作ることを目的に活動しています。出来上がりしましたレシピは先日郵送させていただきました通りです。この活動は今後も続いていきますので、一緒にレシピ集を作ってください方を募集しています。

（田中）

高齢者向けのゲームを作成してきたのですが、高齢者の方に実際に使用してもらうには困難がたくさんありました。そんな中、みんなラボ会員の意見を直接聞いて、一緒に考えていけるような機会に巡り合えて本当によかったと思います。

筑波大学システム情報工学研究科 林 勇希



皆さんに持ち寄っていただいた様々な旬の食材、お料理、デザートを囲みながら、食に関する話題でワイワイガヤガヤと会話をするこの土曜会議はとてもよい雰囲気です。私にとっても楽しいひと時です。これからもこの活動を支援させていただきたいと思います。

キューピー株式会社研究開発本部 三尋木健史



人をつなぐ 居場所サミット

本年九月十三日（土）に、NPO法人スマイル・ステーションが主催している「築波大学 人をつなぐ居場所サミット」がつくばサイエンス・インフォメーションセンターで開催されました。

前半は「居場所の心理学〜コミュニティづくりと学び〜」という茂呂先生（筑波大学教授）の基調講演があり、「居場所」の可能性についてお話がありました。

後半は、学童保育、高齢者の友好クラブなど、色々な居場所を運営している8グループがそれぞれの活動について紹介しました。みんなラボからも、みんなラボカフェ、土曜会議、研究員チームの活動を紹介いたしました。その後「居場所」についてグループディスカッションが行われました。

（栗延）



講演風景

みんなラボでの研究

みんなラボでは会員のみなさまの協力のもと様々な研究活動を行ってまいりました。ご協力いただいたみなさまに感謝申し上げます。これまでに行われた研究活動の内容と成果の一部をご報告させていただきます。（参加依頼は調査内容に合わせてお願いしております）

電動アシスト付き歩行車の 「使いやすさ」研究

平成二十六年七月八日〜二十五日にかけて電動アシスト歩行車の使いやすさ研究を行い、十三名の方々にご参加いただきました。調査ではつくば駅周辺を電動アシスト付き歩行車とアシストなし歩行車で歩いていただき利用感を比べていただきました。電動アシスト付き歩行車は上り坂、下り坂での補助を行うものでした。

平成二十六年十月十一日に研究に参加いただいた方々を対象とした研究結果の報告会を行いました。報告会では、改良され使いやすくなった歩行車の体験会も行われました。

（栗延・富田）



調査の様子

9月のみんなラボカフェ



—自分で続ける健康チェック—

第24回みんなラボカフェでは「自分で続ける健康チェック！健康づくり応援手帳」と題して東京都健康長寿医療センター研究所より野藤研究員と松尾研究員にお越しいただきました。



健康手帳の見本

カフェでは健康づくり応援手帳の有効性をお話いただきました。その後、実際に身体測定などを行いながら、手帳を使ってみて議論を行いました。

議論では「つくば市で配られている健康手帳(写真左)より大きくて使いやすい(B5版)」「手帳に記入する項目がこれだけでよいのはなぜか」「もっと書くとこがほしい」などの意見がでました。(篠原・富田)



みんなラボカフェ風景

開催日時▶9月24日(水) 午後1時から午後3時
場所▶サイエンスインフォメーションセンター
参加者▶会員 30名

野藤研究員



皆様の健康意識の高さや率直な意見をくださる姿勢に感銘を受けました。いただいた意見をもとに開発を進めていきます。

IAUDアワード金賞受賞

「みんなの使いやすいラボ(みんなラボ)」プロジェクトが東京国際交流館で行われた、国際ユニバーサルデザイン協議会(International Association for Universal Design)のIAUDアワード2014で金賞を受賞しました！みんなラボでは、高齢者の皆様と一緒に進めてきたこの3年間の取り組みについて取りまとめIAUDアワード2014への応募をしたところ、この3年間の継続的な高齢者の皆様のみんなラボコミュニティでの様々な活動が評価され、ソーシャルデザイン部門で金賞を頂くことができました。IAUDアワードは、「民族、文化、慣習、国籍、性別、年齢、能力等の違いによって、生活に不便さを感じることなく、“一人でも多くの人が快適で暮らしやすい”UD社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体・個人を表彰する」賞です。

授賞式当日は、みんなラボの責任者の原田とスタッフが参加し、賞状を頂くと共に、みんなラボの取り組みについてプレゼンテーションを行ってきました。賞状や講評の内容については、みんなラボ事務局内で掲示いたしますので、是非ご覧ください。

今後も、みんなラボでの活発なコミュニティ活動、使いやすさ評価活動へのご参加、ご協力をお願いいたします。(静岡大学専任講師 須藤智)



授賞式の様子

左から、富田、栗延、原田、須藤



編集後記

みんなラボ四季報 創刊号は、例年より早く秋の気配の感じられた八月末に発行されました。

みんなラボ、筑波大の研究員メンバーの方々が、創刊号からパソコンを駆使して四季報の原稿入力、編集担当と大活躍ですが、第二号では、研究成果の学会発表等の記事も書いていただき、ネタ切れの心配は、杞憂にすぎなかったようでホッとしております。

これから始まる高齢化社会の先端にいる私たちは、自らの自立のためと、若い世代の負担軽減のために、環境を整えていくことが課題です。

みんなラボの使いやすさの研究から、私たちの今までの経験が活かされることが実証されており、「ここは出

番です！ 日常生活の中でこれは苦手、こうしたら使いやすくなった」等、お知らせいただければ、四季報でも採り上げていきたいと考えております。

地域のニュース、随筆、俳句、和歌等の御寄稿もお待ちしております。宜しくお願い致します。

みんなラボカフェ、土曜会議等の開催スケジュールにつきましては、会員登録していただきますと、その都度、ご連絡申し上げております。

編集者紹介

【みんなラボ会員】 根岸(編集長)、石津、今井、佐々木、篠原、町田、八文字、吉村 **【みんなラボ事務局】** 萩野、富田、栗延、守下 **【筑波大学教員】** 原田、茂呂 **【筑波大学学生】** 新原、広瀬、田中、北本